

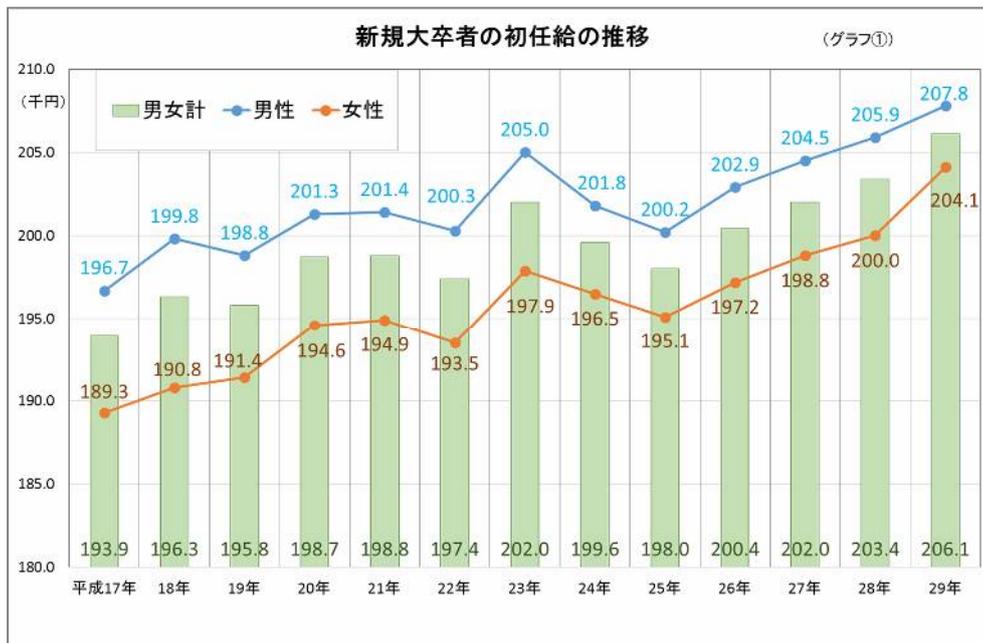
# 大卒者の初任給は4年連続で増加！ 全ての企業規模で前年を上回る

旺文社 教育情報センター 平成 29 年 12 月

厚生労働省がさきごろまとめた「平成 29 年賃金構造基本統計調査」によると、平成 29 年の大卒者の初任給は 20.61 万円で前年より 1.3% 上昇し、4 年連続の増加となった。以下、概要を紹介する。

## ＜男女とも 4 年連続の上昇＞

大卒者初任給は男女計で 20.61 万円、男性は 20.78 万円、女性は 20.41 万円。その推移を見ると、男女計、男女別ともに 23 年から 2 年続けて下降したが、26 年に上昇に転じて以降、4 年連続の上昇となっている。なお、対前年の増加率は、男女計が+1.3%、男性が+0.9%、女性が+2.1%。(グラフ①)



- \* データ：厚生労働省資料「平成 29 年賃金構造基本統計調査（初任給）の概況」（29 年 11 月 15 日）
- ・ 初任給は、10 人以上の常用労働者を雇用する民営事業所のうち、新規学卒者を採用し、初任給が確定した事業所（15,378 事業所）について集計。
- ・ 調査記事：29 年 6 月 1 日～30 日までの期間の状況について、7 月に調査を実施。
- ・ 初任給：通常の所定労働時間、日数を勤務した新規学卒者の 6 月分所定内給与額（基本給のほか諸手当が含まれているが、超過労働給与額は含まれていない）から通勤手当を除いたもの。（集計結果は新規学卒者の数による加重平均。なお、医学部、歯学部卒は除く。）

### <産業別、企業規模別の初任給>

産業別の初任給は、「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」「建設業」の順で高く、男女別では男性が「学術研究、専門・技術サービス業」(21.70万円)、「情報通信業」(21.43万円)、女性が「情報通信業」(21.64万円)、「学術研究、専門・技術サービス業」(21.00万円)で高くなっている。(表①)

一方、企業規模別の初任給では、男女計、男女別ともに大企業(常用労働者1,000人以上)、中期業(同100~999人)および小企業(同10~99人)のすべての企業規模で前年を上回っている。(表②)

■主な産業別初任給および前年増減率(男女計) (初任給単位:千円) (表①)

産業分類	平成29年初任給	平成28年初任給	対前年増減率(%)	産業分類	平成29年初任給	平成28年初任給	対前年増減率(%)
情報通信業	215.0	212.0	1.4%	医療、福祉	204.9	196.7	4.2%
学術研究、専門・技術サービス業	213.9	204.2	4.8%	製造業	203.2	202.0	0.6%
建設業	208.7	210.2	-0.7%	サービス業(他に分類されないもの)	199.2	203.6	-2.2%
卸売業、小売業	207.2	203.8	1.7%	運輸業、郵便業	195.0	192.8	1.1%
教育、学習支援業	206.4	200.6	2.9%	宿泊業、飲食サービス業	194.5	191.7	1.5%
金融業、保険業	205.4	202.7	1.3%	産業計	206.1	203.4	1.3%

\* 産業計=上掲の他、鉱業、採石業、砂利採取業、電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業、物品賃貸業、生活関連サービス業、娯楽業及び複合サービス業を含む。

■企業規模別の初任給 (初任給単位:千円) (表②)

男女計	規模別	平成29年初任給	平成28年初任給	対前年増減率(%)
男女計	企業規模計	206.1	203.4	1.3%
	大企業	211.0	206.9	2.0%
	中企業	202.5	201.1	0.7%
	小企業	199.6	199.1	0.3%
男	企業規模計	207.8	205.9	0.9%
	大企業	212.6	209.5	1.5%
	中企業	203.9	203.6	0.1%
	小企業	202.9	201.9	0.5%
女	企業規模計	204.1	200.0	2.1%
	大企業	209.2	203.5	2.8%
	中企業	200.6	197.7	1.5%
	小企業	196.5	195.9	0.3%

\* 大企業=常用労働者1,000人以上、中企業=常用労働者100~999人、小企業=常用労働者10~99人

なお、他の学歴別初任給でも、男女計、男女とも前年を上回っている。他の学歴の男女計の初任給は以下のとおり。

- ・大学院修士課程修了=23.34万円(対前年増減率+0.9%)
- ・高専・短大卒=17.92万円(対前年増減率+1.3%)
- ・高卒=16.21万円(対前年増減率+0.5%)